

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：37704

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23530945

研究課題名(和文)性被害者の臨床心理査定、臨床心理面接に関する研究～PTSDに視点をあてて～

研究課題名(英文)A Study of Clinical Psychological Assessment and Clinical Psychotherapy of Sexual Victims-Focused on PTSD-

研究代表者

餅原 尚子(Mochihara, Takako)

鹿児島純心女子大学・国際人間学部・教授

研究者番号：70352474

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,000,000円、(間接経費) 1,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、性被害者(PTSD)への適切な臨床心理査定、臨床心理面接について明らかにし、更に、二次被害を予防できるような裁判員裁判について考察した。1991年以降に来談した性被害によるPTSD121事例(本研究期間50事例を含む)を分析した結果、臨床心理査定(特にロールシャッハ・テスト)による症状改善の可能性、臨床心理面接における心理教育の重要性が認められた。

また、大学生194名を対象にした裁判員裁判に関するアンケート調査の結果や、英国(陪審制度)の裁判所、ドイツ(参審制度)の連邦裁判所、被害者支援組織、大学等との学術交流を通し、性被害者への適切な裁判支援のありようを見出すことができた。

研究成果の概要(英文)：This study examines various approaches to appropriate clinical psychotherapy and assessment for sexual victims who have developed PTSD, and considers a judgement system which helps to prevent victims from suffering secondary damage. According to my analysis of 121 cases since fiscal 1990(including 50 cases that occurred between fiscal 2011 and fiscal 2013, the time period of my study) of people who developed PTSD because of sexual damage, the possibility that clinical psychological assessments(especially the Rorschach Test) enables victims to relieve their PTSD symptoms, and the importance of Psycho-education in a clinical psychotherapy can be found.

Furthermore, through a questionnaire survey targeting 194 college students who have been involved with a citizen judgment system, academic exchanges with the British court, and the Federal Court of Justice of Germany, organizations which support sexual victims and colleges etc., some appropriate methods for support sexual victims can be found.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：心理学・臨床心理学

キーワード：性被害者 PTSD(外傷後ストレス障害) 臨床心理査定 臨床心理面接 裁判員裁判 陪審制度 参審制度 被害者支援

## 1. 研究開始当初の背景

本研究代表者(餅原)は、研究分担者(久留)とともに、1991年にわが国で初めて「PTSD (Posttraumatic Stress Disorder ; 外傷後ストレス障害)」と診断された事例への臨床心理査定、臨床心理面接を実施し、発表した(久留・餅原、1997)。それを機に、ロールシャッハ研究第39巻では、PTSDの特集がとりあげられ、その後、性被害者の臨床心理査定、臨床心理面接を重ね、レイプ、セクハラ・ストーカーによりPTSDを呈した2症例の臨床心理査定(餅原・久留、2001)、「暴力被害と女性」の書評(餅原、2002)、性被害者の事例へのカウンセリング(餅原、2003)、性被害によりPTSD症状を呈したロールシャッハ・テスト(餅原ら、2007; 餅原、2010)等について発表してきた。同時に、地域支援として、鹿児島県において、「犯罪被害者等支援連絡協議会」の幹事およびカウンセラーの立場から臨床心理学的支援をしてきた。また、「かごしま犯罪被害者支援センター」の理事(研究分担者:久留は理事長)として、犯罪被害者のPTSDの予防と臨床心理査定、臨床心理面接に携わっている。また、文部科学省委嘱事業では、「平成18年度臨床心理士の資質向上に関する調査研究～犯罪被害者等支援に資する臨床心理士の実践課題～」の基礎調査検討委員の一員に、そして内閣府の支援による鹿児島県の「被害にあわれた方などのためのガイドライン～犯罪被害者等支援を中心にして～(鹿児島県、2010)」作成ワーキングチーム構成員に携わった。

そのような中、わが国においては、2009年度より裁判員制度が始まり、性犯罪もその対象になった。鹿児島県でも2009年12月に性犯罪を対象にした裁判員裁判があり、研究代表者も傍聴し、その感想が掲載された(南日本新聞2009年12月18日記事)。性犯罪を裁判員裁判の対象にするか否かは賛否両論があるが、そのためには性被害者のより正確な臨床心理査定が求められ、それに応じた臨床心理面接、そして司法、行政等による支援のありようが求められるであろう。これらの状況から、性被害者のより正確な臨床心理査定と、適切な臨床心理面接、支援の確立とシステムの構築は急務である。以上の経緯から、本研究の着想に至った。

## 2. 研究の目的

性被害によってPTSDを被った被害者への適切な臨床心理査定、臨床心理面接のありようについて事例を通して明らかにし、同時に、裁判等によって二次被害を被ってしまうといわれる性被害者とその家族への支援や裁判員裁判等のありようについて考察する。また、国内外の臨床心理査定、臨床心理面接や支援システム、裁判員制度の現状把握

(情報収集・情報交換)を行ない、性被害者にとって適切な支援のありよう(裁判等)を明らかにし、性被害者に対して誰もが、その心理を深く理解し、より適切な支援ができるような支援システムの構築を試みることを研究の目的とした。

## 3. 研究の方法

1)1991年以降の性被害者、継続ケースの臨床心理査定と臨床心理面接による回復過程を分析する。新規ケースは研究協力機関(県警や犯罪被害者支援センター)との連携をし、データ収集とその分析を行った。

2)インターネットやデータベース検索を用い、支援システムの現状と課題について把握する。さらに、性被害を受けやすいといわれる一般女性を対象にしたアンケート調査を実施した。

3)陪審制度を採用している英国の裁判所、参審制度を採用しているドイツの裁判所、ならびに両国の被害者支援組織、大学等との情報交流を行った

4)1)～3)の結果をもとに、臨床心理査定と臨床心理面接のありよう、裁判の際に配慮すべき点など、性被害に共通する点、より適切な被害者支援のありようを考察した。

## 4. 研究成果

本研究は、性被害によってPTSDを被った被害者への適切な臨床心理査定、臨床心理面接のありようについて、事例を通して明らかにし、同時に、裁判員裁判のりよ、二次被害を予防できるような被害者支援システムの構築について考察した。

### 1)性被害者の回復過程の分析

1991年以降に来談した性被害によるPTSD121事例(本研究期間50事例を含む)を分析した結果、臨床心理査定(特にロールシャッハ・テスト実施)による症状改善の可能性が示唆された。また、ロールシャッハ・テストを実施することで、「忌まわしい出来事」に直接触れることなく(「再体験(フラッシュバック)」の症状を煽ることを抑制する)、PTSDの症状(「再体験」「回避と感情の麻痺」「神経過敏」)が反応に現れやすいことが見出された。

さらに、被害状況を誰かに伝えた時期について分析した結果、被害直後に誰かに伝えていると、予後は良好であることがうかがわれた。また、性被害者の家族の二次受傷の深刻さも明らかになった。したがって、性被害者のみならず、周囲の家族に対して、初期の臨床心理面接において、心理教育(被害者の心

理状況に応じた見通しと、自己選択の尊重など)の重要性が認められた。

## 2) アンケート調査

裁判員裁判が始まり、性犯罪への厳罰化傾向が明らかになった。予備調査として、性被害者の裁判員裁判に傍聴し、付き添い支援をした犯罪被害者支援センターの相談員にインタビューをしたところ、被害者によっては、「回避」の感情が強く、裁判に向き合おうとする気持ちと同時に、被害に遭ったことを知られたくないという気持ちが潜在することがうかがわれた。中には、裁判員裁判を避け、「致傷罪」を取り下げる被害者もみられた。

以上の予備調査をもとに、大学生 194 名(女子大学生 171 名、男子大学生 23 名)を対象にした裁判員裁判に関するアンケート調査を実施した。その結果、裁判員になりたい人(12.2%)は、「自分だったら告訴する(<0.05)、性暴力犯罪は除外しなくてもよい(<0.05)」と回答していたのに対し、裁判員になりたくない人(57.9%)は、「(自分が性被害に遭ったら)告訴するかわからない(<0.01)」と回答していた。また、女性は、「裁判員は男女比同じがよい(<0.01)」という結果になった。裁判員になりたいかどうか、そして男女によって賛否両論あることが見出された。

## 3) 英国・ドイツとの学術交流

陪審制度を採用している英国のロンドン大学精神医学研究所心理学部、Inner London Crown Court、London Victim Care Unit、Victim Support や、参審制度を採用しているドイツのハイデルベルグ大学精神科クリニック、ヘッセン州司法省・裁判所、HILFE:ヘッセン州立犯罪被害者支援組織、Weisser Ring:被害者支援 NPO での学術交流を実施した。被害者のみならず、証人への支援・配慮の充実、特にロンドンでは、被害者は裁判を公開にするか否かを選択できること、被害者が成人を迎えてから時効が開始されること、公判で住所は秘密にできること(先述のアンケート調査でも、75.1%が自分の氏名以上に、住所は知られたくないと回答していた)な大いに参考になる点を得ることができた。性被害者への適切な支援システムの構築にむけ、これらの結果の啓発と同時に裁判員を含め、惨事を目撃者のメンタルヘルス等も課題として明らかになった。

## 4) 被害者支援システムの構築の試み

性被害者担当の弁護士へ、被害者の症状や気持ち(裁判に対する抵抗など)を代弁することで、時熟を待つという支援もあることをコンサルテーションすることができた。

翌年には、加害者否認することで裁判が難

航し、臨床心理学・大学教授という立場からの意見書を提出した。また、国選被害者参加弁護士により、担当検察官を含め、被害者面接の際の留意点について相談があり、コンサルテーションを行なった。

以上の結果から、性被害者を取りまく支援には、ミクロな視点(PTSDに精通した臨床心理査定・臨床心理面接の実施時期と実施者の人間観、被害者の周囲へのサポートや心理教育)と同時に、マクロな視点(警察、弁護士、検察庁、裁判所、犯罪被害者支援センターとの連携、コンサルテーション等)が重要であることが考察された。本研究成果を広く公表し、より適切な性被害者等への支援システムの構築をはかっていくことが重要であろう。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

### 〔雑誌論文〕(計9件)

餅原尚子、復興支援者への心身的ケアを考える、臨床心理学第11巻第4号、519-523頁、2011年、査読無

久留一郎、精神保健行政との協働はどのようになされるのか?、臨床心理学第11巻第4号、489-493頁、2011年、査読無

餅原尚子、子どもの PTSD とは~その症状の理解~、児童心理941号、97-102頁、2011年、査読無

久留一郎・餅原尚子・関山徹、犯罪被害者を支援する警察官の CIS 等(惨事ストレス・PTSD 傾向の二次受傷)に関する研究、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第7号、29-36、2012年、査読無

久留一郎・餅原尚子、犯罪被害者への心理療法に関する研究~求められる支援のありようとは~、鹿児島純心女子大学大学院心理臨床相談センター紀要第7号、35-44、2012年、査読無

餅原尚子・久留一郎、こどもの PTSD に関する臨床心理学的研究~出来事を表明した時期と症状の変化に視点をあてて~、小児保健かごしま第25号、15-17頁、2012年、査読無

久留一郎、こどものトラウマ(PTSD)をめぐって、小児保健かごしま第25号、24-31、2012年、査読無

四元真弓・餅原尚子・久留一郎、精神科医療で働く臨床心理士における感情労働研究、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第8号、39-47、2013年、査読無

谷口智英・餅原尚子・関山徹・久留一郎、災害派遣における陸上自衛官のストレス緩和要因に関する研究~インタビュー調査の結果から~、鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科紀要第9号、2014年、査読無

〔学会発表〕(計 10 件)

餅原尚子・久留一郎、犯罪被害者等へのカウンセリングと心理教育に関する研究、第 85 回鹿児島精神神経学会、2011 年、鹿児島市

餅原尚子・久留一郎、こどもの PTSD に関する臨床心理学的研究～出来事を表明した時期と症状の変化に視点をあてて～、第 25 回鹿児島県小児保健学会、2011 年、鹿児島市

餅原尚子・久留一郎・新屋敷敏恵・小田奈緒美・児玉さら、スクール・トラウマへの支援に関する臨床心理学的研究～A 中学校の支援事例を通して～、日本心理臨床学会第 30 回秋季大会、2011 年、福岡市

餅原尚子、被害者のロールシャッハ反応、九州臨床心理学会第 40 回大会、2011 年、鹿児島市

四元真弓・餅原尚子・久留一郎、臨床心理士における感情労働に関する臨床心理学的研究、第 87 回鹿児島精神神経学会、2012 年、鹿児島市

久留一郎・餅原尚子・関山徹、犯罪被害者支援に求められる特質に関する研究～被害者へのカウンセリングと支援者のストレスに視点をあてて～、日本心理臨床学会第 31 回大会、2012 年、名古屋市

餅原尚子・久留一郎、救援者のストレス (PTSD、CIS) に関する心理学的研究、九州心理学会第 73 回大会、2012 年、鹿児島市

餅原尚子・久留一郎、トラウマを被った障害児への心理支援、九州学校保健学会、2013 年、佐賀市

餅原尚子・久留一郎、ロールシャッハ・テスト後に急速な回復をみせた PTSD の 2 事例、日本ロールシャッハ学会第 17 回大会、2013 年、大阪市

餅原尚子・久留一郎、「うつ」状態が 10 年以上も変わらないと訴えてきた 2 事例のロールシャッハ反応、第 66 回九州精神神経学会、2013 年、鹿児島市

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：

権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等  
なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者 餅原尚子 (鹿児島純心女子大学国際人間学部・教授)  
研究者番号： 70352474

(2) 研究分担者 久留一郎 (鹿児島純心女子大学大学院人間科学研究科・教授)  
研究者番号： 40024004

(3) 連携研究者 なし ( )  
研究者番号：